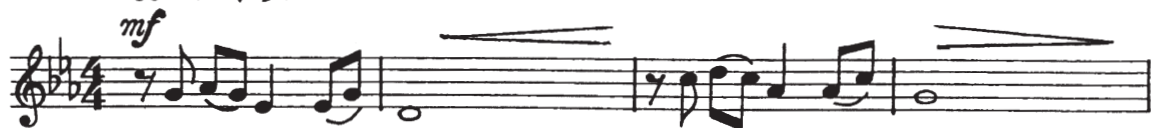


蓮のうてなの御詠歌（浄蓮調）

♩ = 66~72 ぐらい

曾 我 晃 也 作曲



○ × × ○ × × ○ × × ○ × ×
〔齊唱〕 さき—だ た—ば さき—だ た—ば



○ × × ○ × × ○ × × ○ × ×
 おくる る ー ひ と を まちーやーせ ん は



$\otimes$ $\otimes$ $\otimes$ $\otimes$ $\otimes$ $\otimes$ $\otimes$ $\otimes$ $\otimes$ $\otimes$
 な の うて な の は な の うて な—



$\otimes \otimes \otimes$ $\circ \times \circ \times \circ \times \times$ $\times$
 の な か ばのこ して —

はちす

蓮のうてなの御詠歌

さきだたば おくるるひとを まちやせん はなのうてなの なかばのこして

法然上人は「えしやじょうり会者定離は常の習、今はじめたるにあらず。何ぞ深く歎かんや。宿縁空しからずば同一蓮に坐せん。浄土の再会、甚だ近きにあり。今の別は暫くの悲しみ、春の夜の夢の如し。しんぼう信謗ともに縁として、先に生れて後を導かん。いんじょうえん引摂縁はこれ浄土の樂なり」と仰せられています。

念仏往生人は神通自在の徳を得、菩薩の行が出来る力をそなえています。念仏有縁の方の臨終にはその方が一番親しい分かりやすい生前の姿で、仏聖衆と共にその方の眼前に現れ、浄土に間違いなく往生出来るという確信を持たせ、安心して正念に住して勇んで浄土に往生できるように助け迎えて下さいます。

大意 私が先にお浄土に生まれましたら、後からお浄土に来られるあなたのために、はちす うてな蓮の台をととの調べてお迎えいたします。

ポイント注意

- 「はなのうてな」から明るい声で、「はな」が「あな」にならないように。